

第60次南極地域観測隊 副隊長にインタビュー！



はらだ なおみ
原田 尚美さん

参加した観測隊

- ・夏 隊：第33次・第60次
(第60次隊は2018年11月に出発)

プロフィール

北海道生まれ。
名古屋大学大学院理学研究科満了
博士（理学）
専門は生物地球科学



南極観測隊に参加したきっかけは何ですか？副隊長はどんなお仕事をするのですか？

第33次隊の時は、当時の福地光男隊長が生物学の専門家で、海洋中を沈降するマリンスノーという粒子の研究が主要テーマであったことからそれを捕集するため、南大洋にセジメントトラップ係留系けいりゅうけいを設置するという観測を担当する若手を探していました。私が所属していた名古屋大学大気水圏科学研究所の半田暢彦研究室は、セジメントトラップ係留系を使った生物地球化学研究のメッカであり、福地隊長から半田先生に問い合わせがあり、日本隊としては2人目の女性隊員として参加が実現しました。第60次隊では、今、北極海で取り組んでいる希少な植物プランクトン研究きしょうを南極でも発展させたいと思っていた折、声をかけていただいて渡りに船で参加させていただける事になりました。副隊長の仕事は、隊員皆さんの仕事がうまく運ぶようにお手伝いする事です。



南極で印象に残っていることはなんですか？

風のない穏やかな天気のちの夜（と言っても白夜なので明るいのですが）、全ての作業が終わって皆がお休みに入る頃、全ての人工的な音が止んだ時、何も音がしない事に感動しました。南極で目に入って来る景色が素晴らしかった事以上に音の記憶がいまでも印象的な記憶として残っています。

海氷に穴を開けて海水やプランクトン・海底堆積物かいいていたいせきぶつを採取したり、空からヘリコプターを使ったペンギンとアザラシの頭数を計測するモニタリング観測、オブザーバーとして参加していたブラジル人研究者のサポートなど、観測業務はとても体力的には厳しいものでしたが、楽しくて仕方ありませんでした。また、毎日の食事や作業の途中にいただくおやつがとても美味しかったことが強く印象に残っています。



子どもたちへのメッセージをおねがいします！

指導してくださった先生の影響で南極の素晴らしさを知り、いつか行ってみたいと強く思い、実現できました。興味を持ったことをつきつめて「こうしたい！」と思い、行動することが大切だなと思います。夢の実現につながりますよ。